2023 年度

専 門 科 目 講 義 計 画 書

（1 回 生）

京 都 大 学 医 学 部 医 学 科

専 門 科 目 授 業 時 間 割

時間割の見方

日	曜	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ	
10	火					医学概論	基一				
11	水							特別講義	記念		

←［時限］

［科目］　［講堂］

［時　　限］

午　前

Ⅰ・・・・・　８：４５～１０：１５

Ⅱ・・・・・１０：３０～１２：００

午　後

Ⅲ・・・・・　１：１５～２：４５

Ⅳ・・・・・　３：００～４：３０

Ⅴ・・・・・　４：４５～６：１５

［専門科目等］　（　）内は責任者

医療情報　・・・・・　A1 医療情報リテラシー　(黒田　知宏)

早期Ⅰ　・・・・・　A2 早期体験実習Ⅰ　(山本　憲/種村　文孝)

特別講義　・・・・・　特別講義

［全学共通科目］

医学概論　(山田　正之)

［講　　堂］　１ページ地図参照

基一　・・・・・　基礎第一講堂　(B 棟　３階)

基三　・・・・・　基礎第三講堂　(総合解剖センター　１階)

記念　・・・・・　医学部記念講堂　(基礎医学記念講堂・医学部資料館１階)

一実　・・・・・　第一実習室　(Ｂ棟　２階)

三実　・・・・・　第三実習室　(総合解剖センター　地階)

四実　・・・・・　第四実習室　(総合解剖センター２階)

芝蘭　・・・・・　芝蘭会館

臨一　・・・・・　臨床第一講堂　(病院構内臨床講堂　１階)

臨二　・・・・・　臨床第二講堂　(病院構内臨床講堂　地階)

１　回　生　授　業　時　間　割

（４月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	土					
2	日					
3	月					
4	火					
5	水					
6	木					
7	金					
8	土					
9	日					
10	月					
11	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
12	水				A1 基三	
13	木					
14	金					
15	土					
16	日					
17	月					
18	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
19	水				A1 基三	
20	木					
21	金					
22	土					
23	日					
24	月					
25	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
26	水				A1 臨一	
27	木					
28	金					
29	土	昭和の日				
30	日					

（５月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	月					
2	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
3	水	憲法記念日				
4	木	みどりの日				
5	金	こどもの日				
6	土					
7	日					
8	月					
9	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
10	水				A1 基三	
11	木					
12	金					
13	土					
14	日					
15	月					
16	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
17	水				A1 四実	
18	木					
19	金					
20	土					
21	日					
22	月					
23	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
24	水				A1 四実	
25	木					
26	金					
27	土					
28	日					
29	月					
30	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
31	水				A1 四実	

（６月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	木					
2	金					
3	土					
4	日					
5	月					
6	火			医学概論 基一	特別講義 基一	
7	水				A1 四実	
8	木					
9	金					
10	土					
11	日					
12	月					
13	火			医学概論 基一		
14	水				A1 四実	
15	木					
16	金					
17	土					
18	日	京都大学　創立記念日				
19	月					
20	火			医学概論 基一		
21	水				A1 四実	
22	木					
23	金					
24	土					
25	日					
26	月					
27	火			医学概論 基一		
28	水				A1 基三	
29	木					
30	金					

（７月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	土					
2	日					
3	月					
4	火			医学概論 基一		
5	水				A1 基三	
6	木					
7	金					
8	土					
9	日					
10	月					
11	火			医学概論 基一		
12	水				A1 基三	
13	木					
14	金					
15	土					
16	日					
17	月	海の日				
18	火					
19	水				A1 基三	
20	木					
21	金					
22	土					
23	日					
24	月					
25	火			医学概論 基一		
26	水				A1 基三	
27	木					
28	金					
29	土					
30	日					
31	月					

１　回　生　授　業　時　間　割

（ ８ 月 ）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	月					
2	火					
3	水					
4	木					
5	金					
6	土					
7	日					
8	月					
9	火					
10	水					
11	木	山の日				
12	金					
13	土					
14	日					
15	月					
16	火					
17	水					
18	木					
19	金					
20	土					
21	日					
22	月					
23	火					
24	水					
25	木					
26	金					
27	土					
28	日					
29	月					
30	火					
31	水					

（ ９ 月 ）

早期体験実習Ⅰ
（9月に1週間実施）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	金					
2	土					
3	日					
4	月					
5	火					
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
10	日					
11	月					
12	火					
13	水					
14	木					
15	金					
16	土					
17	日					
18	月	敬老の日				
19	火					
20	水					
21	木					
22	金					
23	土	秋分の日				
24	日					
25	月					
26	火			早期Ⅰ	芝蘭	早期Ⅰ	芝蘭
27	水					
28	木					
29	金					
30	土					

（ 10 月 ）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	日					
2	月					
3	火					
4	水					
5	木					
6	金					
7	土					
8	日					
9	月	スポーツの日				
10	火					
11	水					
12	木					
13	金					
14	土					
15	日					
16	月					
17	火					
18	水					
19	木					
20	金					
21	土					
22	日					
23	月					
24	火					
25	水					
26	木					
27	金					
28	土					
29	日					
30	月					
31	火					

（ 11 月 ）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	水					
2	木					
3	金	文化の日				
4	土					
5	日					
6	月					
7	火					
8	水					
9	木					
10	金					
11	土					
12	日					
13	月					
14	火					
15	水					
16	木					
17	金					
18	土					
19	日					
20	月					
21	火					
22	水	11月祭				
23	木	勤労感謝の日				
24	金	11月祭				
25	土					
26	日					
27	月					
28	火					
29	水					
30	木					

（ 12 月 ）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	金					
2	土					
3	日					
4	月					
5	火					
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
10	日					
11	月					
12	火					
13	水					
14	木					
15	金					
16	土					
17	日					
18	月					
19	火					
20	水					
21	木					
22	金					
23	土					
24	日					
25	月					
26	火					
27	水					
28	木					
29	金					
30	土					
31	日					

１　回　生　授　業　時　間　割

（１月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	月	元旦				
2	火					
3	水					
4	木					
5	金					
6	土					
7	日					
8	月	成人の日				
9	火					
10	水					
11	木					
12	金					
13	土					
14	日					
15	月					
16	火					
17	水					
18	木					
19	金					
20	土					
21	日					
22	月					
23	火					
24	水					
25	木					
26	金					
27	土					
28	日					
29	月					
30	火					
31	水					

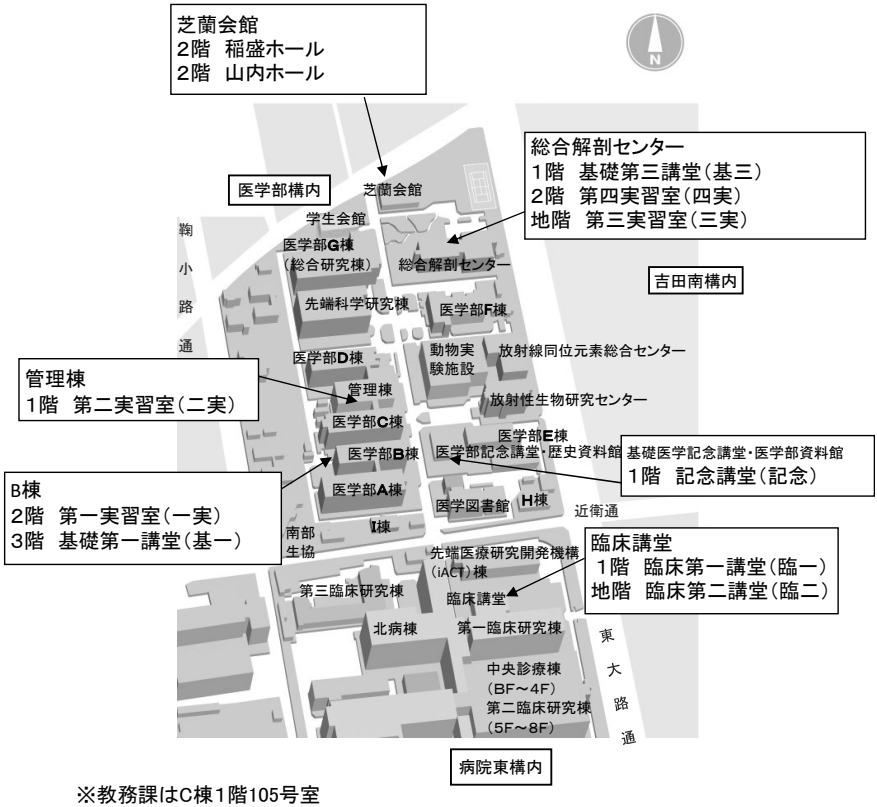
（２月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	木					
2	金					
3	土					
4	日					
5	月					
6	火					
7	水					
8	木					
9	金					
10	土					
11	日	建国記念の日				
12	月	振替休日				
13	火					
14	水					
15	木					
16	金					
17	土					
18	日					
19	月					
20	火					
21	水					
22	木	学部入試準備				
23	金	天皇誕生日				
24	土					
25	日	学部入試				
26	月	学部入試				
27	火	学部入試				
28	水					
29	木					

（３月）

日	曜	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	金					
2	土					
3	日					
4	月					
5	火					
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
10	日					
11	月					
12	火					
13	水					
14	木					
15	金					
16	土					
17	日					
18	月					
19	火					
20	水	春分の日				
21	木					
22	金					
23	土					
24	日					
25	月					
26	火					
27	水					
28	木					
29	金					
30	土					
31	日					

医学部・病院構内案内図



※教務課はC棟1階105号室

令和5年度医学部医学科初年次プログラム

１回生へのプログラムとして、以下の取り組みを必修としている。

【講義日】

2023年 4月 11日（火）Ⅳ限　　2023年 5月　9日（火）Ⅳ限
2023年 4月 18日（火）Ⅳ限　　2023年 5月 16日（火）Ⅳ限
2023年 4月 25日（火）Ⅳ限　　2023年 5月 23日（火）Ⅳ限
2023年 5月　2日（火）Ⅳ限　　2023年 5月 30日（火）Ⅳ限

特別講義　　（Ⅳ時限：15:00～16:30）

月日（曜日）	時限	講 義 内 容	担当者		講堂
			所属等	氏名	
4月11日(火)	Ⅳ	21世紀の生命科学を考える	NPO オール･ｱﾊﾞｳﾄ･サイエンス･ｼﾞｬﾊﾟﾝ代表理事 京都大学名誉教授	西川　伸一	基一
4月18日(火)	Ⅳ	京都帝国大学の歴史―開学から1945年まで	公益社団法人 京都保険会　所長 京都大学名誉教授	小泉　昭夫	〃
4月25日(火)	Ⅳ	サリドマイド薬禍から学ぶ	公益財団法人 いしずえ	増山　ゆかり	〃
5月2日(火)	Ⅳ	iPS細胞と網膜疾患	株式会社ビジョンケア 代表取締役社長	髙橋　政代	〃
5月9日(火)	Ⅳ	私にとっての医療 －国際的な医療援助活動の経験から（国際保健と国際医療活動について）－	医療法人永井病院 救急科医師 国境なき医師団 海外派遣スタッフ	久留宮　隆	〃
5月16日(火)	Ⅳ	武者修行の面白さ	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招へい教授	宮坂　昌之	〃
5月23日(火)	Ⅳ	がん免疫治療法の現状と将来	京都大学高等研究院 副院長／特別教授	本庶　佑	〃
5月30日(火)	Ⅳ	新型コロナウイルス感染症制御のデザイン	京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻 健康要因学講座 環境衛生学 教授	西浦　博	〃

※講義内容については変更の可能性あり

令和5 (2023)年度 全学共通科目「医学概論」

Ⅲ時限 (13:15～14:45)

授業回数	月日(曜日)	時限	講義内容(タイトル)	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
1	4月11日(火)	Ⅲ	基礎医学者の仕事	システム神経薬理学	教授	林 康紀	基礎第一講堂
2	4月18日(火)	Ⅲ	The Impossible Dream 見果てぬ夢を追いかけて―魔法の弾丸を求める旅―	形態形成機構学	教授	萩原 正敏	〃
3	4月25日(火)	Ⅲ	がん研究のブレークスルーを目指して	分子腫瘍学	教授	藤田 恭之	〃
4	5月2日(火)	Ⅲ	医学研究における実験動物の役割	動物実験施設	教授	浅野 雅秀	〃
5	5月9日(火)	Ⅲ	脳科学の過去・現在・未来	神経生物学	教授	伊佐 正	〃
6	5月16日(火)	Ⅲ	Challenge in Biomedical Complexity	生体情報科学	教授	渡邉 大	〃
7	5月23日(火)	Ⅲ	腎臓病学の進歩(最新の知見をまじえて)	腎臓内科学	教授	柳田 素子	〃
8	5月30日(火)	Ⅲ	ひとの命を次世代につなぐ産婦人科の魅力	婦人科学・産科学	教授	万代 昌紀	〃
9	6月6日(火)	Ⅲ	小児科学を深く知ろう	発達小児科学	教授	滝田 順子	〃
10	6月13日(火)	Ⅲ	脳と心(精神疾患)	精神医学	教授	村井 俊哉	〃
11	6月20日(火)	Ⅲ	最後の砦としての覚悟～肝胆膵移植外科～	肝胆膵・移植外科	教授	波多野 悦朗	〃
12	6月27日(火)	Ⅲ	皮膚はふしぎ～Physician-Scientistの魅力～	皮膚科学	教授	椛島 健治	〃
13	7月4日(火)	Ⅲ	デジタルヘルスケアの時代における、大規模データベースを用いた臨床疫学と予防医学	薬剤疫学	教授	川上 浩司	〃
14	7月11日(火)	Ⅲ	医療経済・医療の質と制度政策	医療経済学	教授	今中 雄一	〃
15	7月25日(火)	Ⅲ	期末試験				
16	8月1日(火)	Ⅲ	ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ				

A1　医療情報リテラシー

授業回数	月日(曜日)	時限	講　義　内　容	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
1	4月12日(水)	Ⅳ	医療情報リテラシー概論	医療情報学	教授	黒田　知宏	基三
2	4月19日(水)	Ⅳ	医療安全・医療倫理の基礎	医療安全管理部	教授	松村　由美	〃
3	4月26日(水)	Ⅳ	医療者の法的責任	中村・平井・田邊法律事務所	弁護士	平井　利明	臨一
4	5月10日(水)	Ⅳ	情報処理の基礎	医療情報学	教授	黒田　知宏	基三
5	5月17日(水)	Ⅳ	情報セキュリティ	〃	〃	〃	四実
6	5月24日(水)	Ⅳ	情報検索の考え方	先制医療・生活習慣病センター	特定教授	南部　雅幸	〃
7	5月31日(水)	Ⅳ	医学文献の検索と整理方法	医学図書館	職員	渡邊　伸彦	〃
8	6月7日(水)	Ⅳ	データの集め方と表計算ソフト	北野病院	部長	平木　秀輔	〃
9	6月14日(水)	Ⅳ	レポートの作り方	医療情報学	教授	黒田　知宏	〃
10	6月21日(水)	Ⅳ	プレゼンテーションの基礎	〃	〃	〃	〃
11	6月28日(水)	Ⅳ	研究倫理	健康情報学	教授	中山　健夫	基三
12	7月5日(水)	Ⅳ	知財管理	知的財産経営学分野	特定教授	早乙女　周子	〃
13	7月12日(水)	Ⅳ	発表会	医療情報学	教授	黒田　知宏	〃
14	7月19日(水)	Ⅳ	発表会	〃	〃	〃	〃
15	7月26日(水)	Ⅳ	発表会	〃	〃	〃	〃

A2 早期体験実習Ⅰ

授業回数	月日(曜日)	時限	講 義 内 容	担当者			講堂
				所属	職	氏名	
1	5月10日(水)	Ⅵ	事前ガイダンス①(目的、課題)	医学教育・国際化推進センター	助教	種村文孝	基一
2	7月6日(木)	Ⅵ	事前ガイダンス②(医・薬・人間合同)	医学教育・国際化推進センター	助教	種村文孝	〃
3	9月1日(金) ～9月14日(木)		実習(一週間)				他
4	9月26日(火)	Ⅲ	事後ワークショップ①	医学教育・国際化推進センター	助教	種村文孝	芝蘭会館
5	〃	Ⅳ	事後ワークショップ②	医学教育・国際化推進センター	助教	種村文孝	〃

各回授業の講義計画

1. 医療情報リテラシー概論

担当：黒田　知宏（医療情報学）

【講義計画】

本講義では、医学部学生として学ぶ基本的な姿勢と社会的責任を講ずる。

その社会的責任を果たすために、また医師としての社会的責任を果たすために、情報リテラシーを身につけることがどうして必要であるのかについて講じ、本講義の医学部教育全体の中における位置づけについて明確にする。

次に、情報管理の基礎の基礎であるパスワードの管理方法と、正しいパスワードの決め方について講じ、情報セキュリティの基礎的知識を身につける。

最後に、本学で学ぶにあたって必要な、本学教育支援システム PandA の利用方法について講じ、実際にこれを利用して、情報端末（PC）からWWWブラウザを通じて情報の入力が出来る基本的スキルを身につける。

【具体的学習目標】

1. 医師・医学研究者が情報リテラシーを学び身につける意義を知る。
2. パスワードの正しい設定方法について学ぶ。
3. 京都大学のオンライン教育支援環境 PandA を使いこなせるようになる。

【講義方法】

プリント・スライド・実習

【最低到達目標】

1. パスワードの重要性と正しい取り扱い方について学ぶ
2. 自分の力でインターネット上の教育環境（PandA）にログインし、レポートを記入して提出できる。

コアカリキュラム

2. 医療安全・医療倫理の基礎

担当：松村 由美（医療安全管理部）

【講義計画】

本講義では、医療安全・医療倫理、特にコミュニケーションエラーや患者説明などの重要性について、事例をもとに、問題がどこにあるのか考え、グループ・ディスカッションを通じて、自ら考える機会をもつ。

病状の理解や、治療方針の選択について、患者側のものの見方を学び、医療者のそれと対比させながら、医療人として必要な倫理的思考を涵養する。

【具体的学習目標】

1. 医療者と患者との間のコミュニケーションエラーに起因する事故事例を取り上げ、コミュニケーションの重要性と困難さについて学ぶ
2. 患者の意思決定プロセスについて、患者と医療者の考え方の違いに焦点をあて、議論する。
3. 医療資源の公平配分といった倫理的課題について、学生一人ひとりが意見をまとめる。

【講義方法】

プリント・グループワーク

【最低到達目標】

1. 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例(経緯を含む)、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
2. 患者に分かりやすい言葉で対話できる。
3. 医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。
4. 患者のプライバシーに配慮できる。
5. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。

コアカリキュラム

A-4-2)-②、A-4-2)-④、A-4-2)-⑥、A-4-2)-⑦、A-6-1)-④

3. 医療者の法的責任

担当：平井 利明（弁護士：中村・平井・田邉法律事務所）

【講義計画】

医師は，医療行為を実施して，患者の生命や身体を全うさせること等を本質とするものと考えられます。その意味で医師や医療行為は，社会において非常に重要な地位を占めているといます。しかし，医療行為は，他人の生命や身体に対して侵襲を加える等危機を与えるものでもあります。そのため，医師は国家資格とされ，医業は，医師によって原則として独占されていることが社会の実態となっています。

このような社会実態から，医師には様々な法律的な責任が課せられています。

この講義を通じて，その一端を理解頂きたいと考えています。

【具体的学習目標】

医師に課せられた法律上の責任にはどのようなものがあるのか。
そして，なぜそのような義務が課せられているのか。
このような内容を，具体的事例なども通じて，理解できるようになっていただきたい。

【講義方法】

プリント等

【最低到達目標】

1. 医師の法的義務を列挙し，例示できる。
2. 医療過誤に関連して医師に課せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任）を説明できる。

コアカリキュラム
A-6-2)-③

4. 情報処理の基礎

担当：黒田　知宏（医療情報学）

【講義計画】
本講義では、コンピュータなどの情報機械の中で、情報がどのように扱われているのかについて基本的な知識を得る。
具体的には、情報機械の基本構造である、「ステートマシン」の考え方について講じ、実際にこれを自ら設計して、情報機械の設計のポイントについて理解する。
また、現実世界を情報機械に入れる基本的方法である「サンプリング」の考え方について講じ、コンピュータの中で処理される情報の性質について講ずる。

【具体的学習目標】
1. ステートマシンの考え方について学ぶ。
2. コンピュータやプログラムの基本的な作り方について学ぶ。
3. サンプリングの考え方と、サンプリング定理について理解する。
4. 離散的な情報を扱うことに夜様々な副作用について理解する。

【講義方法】
プリント・スライド・実習

【最低到達目標】
1. ステートマシンの考え方について理解する。
2. サンプリング定理について理解する。

コアカリキュラム

5. 情報セキュリティ

担当：黒田　知宏（医療情報学）

【講義計画】
　本講義では、情報セキュリティの基本的考え方と、個人情報保護の基本的考え方について講ずる。
　個人情報保護については、医師には常に守秘義務が課せられているという基本的なことを講じた上で、個人情報を保護するために注意しなければならない様々なTIPSについて、事例を交えて講ずる。
　次に、情報セキュリティについては、サイバー攻撃の基本的な手段・方法・考え方について、事例を交えて講ずる。

【具体的学習目標】
1. 医師の守秘義務と、医療における個人情報保護の重要性について理解する。
2. 個人情報保護を実践するための具体的手段について理解する。
3. 情報セキュリティのCIAと、医療における情報セキュリティの重要性について理解する。
4. サイバー攻撃の基本的な手法について理解する。
5. 情報セキュリティを保つための具体的手段について理解する。

【講義方法】
プリント・スライド

【最低到達目標】
1. 医師の守秘義務について理解する。
2. 情報セキュリティのCIAについて理解する。

コアカリキュラム

6. 情報検索の考え方

担当:南部 雅幸(先制医療・生活習慣病研究センター)

【講義計画】

本講義では医学部学生の医学研究と学習に必要な、様々な情報の検索・収集・閲覧の方法についての基礎知識を身に着ける。

まず初めに先行研究の調査と参考文献の収集・整理の重要性について講義を行う。次に文献検索に必要なWWW上の検索エンジンやデータベースについて個別の事例を挙げ、その特色と得意分野、使用方法などについて解説する。

また、文献情報を共有する際に重要となる著作権について概略を説明し著作権に対する基礎的な意識を身に着ける。その上で具体的な文献検索の方法について事例を挙げつつ、検索の際に必要な検索式の記述方法を習得する。

最後に自らWWWブラウザを操作し、希望する参考文献を検索し、必要な情報を獲得する実習を行う。

【具体的学習目標】

1. 医学研究・学習について、情報を検索し収集する必要性を知る。
2. 情報検索・収集に必要な情報検索エンジン・データベースに関する知識を得る。
3. 情報検索のための検索式の記述方法を習得する。

【講義方法】

プリント・スライド・実習

【最低到達目標】

1. WWWブラウザを利用することができる。
2. 検索エンジンを使って必要な情報を探し出すことができる。

コアカリキュラム

A-2-2)-①

7. 医学文献の検索と整理方法

担当：渡邊　伸彦（医学図書館）

【講義計画】
　医療現場では様々な情報が必要となる。臨床研究、治療方法研究、治療方針計画、患者・家族への説明のためなど、場面ごとに必要な情報を、最適な検索エンジンやデータベースを使って収集し、検索結果について評価し、効率的に管理・利用できることを目的とする。また情報を検索し、収集する際の注意事項についても、理解し適切に取り扱うことができるようにする。

【具体的学習目標】
1. 論文検索データベースの特徴を理解し説明できる。
2. 検索目的に適合した検索語の抽出方法と検索方法を説明できる。
3. 統制語（シソーラス）を利用した検索ができる。
4. 情報を収集し、整理・管理、利用方法について説明できる。
5. 電子ジャーナルに掲載されていない文献を入手する方法を説明できる。
6. 雑誌論文の種類とその特性について説明できる。
7. 文献管理ツールを利用し参考文献リストの作成ができる。

【講義方法】
プリント・スライド・実習

【最低到達目標】
1. 医中誌Web、PubMedの特徴を説明できる。
2. 検索目的にあった最適な検索方法を説明できる。
3. 検索結果を評価し、適正な文献数を抽出できる。
4. 参考文献の項目の説明ができる。
5. 検索結果を文献管理ツールに保存し、参考文献リストを出力することができる。
6. 電子リソースの適正な利用方法（ダウンロード・コピー・配付）について説明できる。

コアカリキュラム
A-2-2)-①

8．データの集め方と表計算ソフト

担当：平木　秀輔（医療情報学）

【講義計画】

本講義では、表計算ソフトウェアの基礎的な使用方法を習得し、平均・分散などの計算処理を行う方法を医学に基づく実例を用いて学ぶ。

加えて、簡単なデータ収集を行い表計算ソフトウェアで処理を行う。

【具体的学習目標】

1. 表計算ソフトを使い、計算式の埋め込みとグラフ化ができる。
2. 与えられたデータを用いて意味のある情報を抽出することができる
3. データ収集の際に重要となる要素を説明できる

【講義方法】

プリント・スライド・実習（表計算ソフトウェアにはMicrosoft Excel®を使用する）

【最低到達目標】

1. データファイルの作成・複写・移動ができる
2. 表計算ソフトウェアを用いて四則演算・平均・分散の計算ができる
3. 表計算ソフトウェアを用いて、棒グラフが作成できる
4. 計算結果からその情報の持つ意味を説明できる

コアカリキュラム

9. レポートの作り方

担当：黒田　知宏（医療情報学）

【講義計画】
　本講義では、主にワープロソフトを用いて決められた形式のレポートを作成できるようになることを目指す。
　具体的には、医師として職務遂行や医学研究実施の際に最低限必要なワープロソフトの使用方法やレポートの作成方法について、いくつかの事例を用いながら習得する。

【具体的学習目標】
1.　得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
2.　実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。
3.　データファイルの作成、複写、移動ができる。
4.　ワープロソフトを使い、文書ファイルの作成や保存ができる。

【講義方法】
プリント・スライド・実習

【最低到達目標】
1.　ワープロソフトを用いたレポートを提出する。
2.　上記レポートの中にグラフなどを含めるようにする。
3.　上記レポートが決められた様式に従ったものになるように品質管理も行う。

コアカリキュラム
A-2-2)-②, A-2-2)-③　-

10. プレゼンテーションの基礎

担当:黒田　知宏(医療情報学)

【講義計画】

本講義では、プレゼンテーションの際の基礎的知識を講ずる。

まず、プレゼンテーションの意義、すなわち、医学学習や医師としての活動の中でのプレゼンテーションの重要性について講ずる。次に、プレゼンテーションを行う際に気をつけるべき事を、コミュニケーション科学、認知科学の視点から整理する。最後に、プレゼンテーションの学ぶべき事例について紹介し、自学でプレゼンテーションを学ぶためのきっかけを与える。

【具体的学習目標】

1. プレゼンテーションの意義、特に研究者・医療者としての重要性について理解する。
2. プレゼンテーションの際に気をつけるべき、相手に対する理解、人間の視覚特性等に対する理解を得る。
3. プレゼンテーションを学び・訓練する手法について学ぶ。
4. プレゼンテーションツールの基本的使い方について理解する。

【講義方法】

プリント・スライド

【最低到達目標】

1. プレゼンテーションの意義について理解する。
2. プレゼンテーションを学び・訓練する手法について理解する。

コアカリキュラム

A-2-2)-②，A-2-2)-③

11. 研究倫理

担当：中山 健夫（健康情報学）

【講義計画】

研究の倫理・公正な科学研究：学術情報の信頼性を考える

【具体的学習目標】
1.　臨床と研究の倫理の違いを説明できる
2.　公正な科学研究における不正行為について説明できる
3.　COI（利益相反）とは何かを説明できる

【講義方法】
プリント・スライド

【最低到達目標】
1.　臨床と研究におけるインフォームド・コンセントの意義と必要性を説明できる。
2.　研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。

コアカリキュラム
A-8-1)-①

12. 知財管理

担当：早乙女 周子（知的財産経営学）

【講義計画】

医学研究の成果を新しい医療として患者さんに届けるためには、製薬企業や医療機器メーカーと連携し、事業化することが不可欠である。そのためには、医学研究の成果を知的財産として適切に保護することと同時に、他者の権利の適切な利用も求められる。

本講義は、まず医学研究から創造される知的財産権の種類、保護対象、保護期間、事業分野ごとの特徴について学習する。

特に、特許権について医薬品との関連、特許保護の対象となる発明の要件、出願手続き、発明者の要件について学習する。医薬品に関連する知的財産として、医薬品のデータ保護についても概説する。

医学研究の成果の主な活用として、研究成果の公表がある。本講義では、学術論文等に関する知的財産権である著作権について、著作物の要件、著作権の概要、他者の著作物の利用方法について学習する。

【具体的学習目標】

1. 医学研究を保護する知的財産権にどのような物があるかについて説明できる。
2. 特許権、著作権の概要について説明できる。
3. 他者の知的財産権を利用する際の留意点について説明できる。

【講義方法】

プリント・スライド

【最低到達目標】

1. 医療・医学の発展における、医学研究の成果を保護する意義について説明できる。
2. 知的財産権の種類にはどのようなものがあるか説明できる。
3. 他者の著作物を利用する際の留意点について説明できる。

コアカリキュラム

A-8-1)-①

13. 発表会

担当:黒田　知宏(医療情報学)

【講義計画】
　本発表会では、これまでの本講義で学んだ知識を総動員し、実際に自ら行った研究成果について、班に分かれて発表する。

【具体的学習目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。
2.　聴衆に自らの考えに興味を持たせ、聞かせることが出来る。

【講義方法】
実習

【最低到達目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。

コアカリキュラム
　A-2-1)-①、A-2-1)-②、A-2-1)-③、A-2-1)-④、A-2-1)-⑤、A-9-1)-①、A-9-1)-②、A-9-1)-③、A-9-1)-④

14. 発表会

担当:黒田　知宏(医療情報学)

【講義計画】
　本発表会では、これまでの本講義で学んだ知識を総動員し、実際に自ら行った研究成果について、班に分かれて発表する。

【具体的学習目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。
2.　聴衆に自らの考えに興味を持たせ、聞かせることが出来る。

【講義方法】
実習

【最低到達目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。

コアカリキュラム
A-2-1)-①、A-2-1)-②、A-2-1)-③、A-2-1)-④、A-2-1)-⑤、A-9-1)-①、A-9-1)-②、A-9-1)-③、A-9-1)-④

15. 発表会

担当:黒田　知宏(医療情報学)

【講義計画】
　本発表会では、これまでの本講義で学んだ知識を総動員し、実際に自ら行った研究成果について、班に分かれて発表する。

【具体的学習目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。
2.　聴衆に自らの考えに興味を持たせ、聞かせることが出来る。

【講義方法】
実習

【最低到達目標】
1.　本講義で学んだ全ての事項を反映した、正しいプレゼンテーションを実行できる。

コアカリキュラム
A-2-1)-①、A-2-1)-②、A-2-1)-③、A-2-1)-④、A-2-1)-⑤、A-9-1)-①、A-9-1)-②、A-9-1)-③、A-9-1)-④

事前ガイダンス①

担当：種村文孝（医学教育・国際化推進センター）

【講義計画】

早期体験実習Iは、医学部医学科・人間健康科学科・薬学部による多職種連携型病院実習を中心とした体験型授業である。本来は、夏季休業中の1週間、学生は市中病院において①自分が目指す医療職のシャドーイング（医学科は医師）、②簡単な作業手伝いを通しての患者さんとのコミュニケーション、③他の職種へのシャドーイング、業務見学、インタビューなどを行うものである。しかし、新型コロナウイルスの影響下において、医療現場に関する動画、現場で働く医療職との対話、自身の興味関心に基づく自己学習によって深めるものとする。

1回生前期は、受験の負担から解放されるとともに「自分は未来の医師として何を目指し、何を学ぶのか」をそれぞれに考え、行動し始める重要な時期である。この点を明確にするにあたって、自身の目的意識を明確化するとともに、能動的にそれを深める機会が必要である。

そこで「事前ガイダンス①」では、本実習の趣旨について学生と共有するとともに、実習前の準備、実習中の課題、実習後の振り返りまでのプロセス、必要な諸手続き、課題、評価などについて説明する。この段階では、各学生が「私の学習目標」を作成・提出することが最初の課題となる。これは、実習全体を通して何を知りたいか、何を深めたいかを考えるものであり、実習先の医療機関にも共有し、実習内容についても考慮するものとなる。自分が「どのような医師になりたいか」を考える第一歩として、この「私の学習目標」の作成に取り組んでもらいたい。

【具体的学習目標】

1．本実習が根ざす自己主導的学習の概念について理解できる。
2．本実習の目的、課題、評価基準、具体的手続きについて理解できる。
3．関心分野やトピックなどについてリサーチし、それらに基づいて自分なりの医療への関心を検討し、「私の学習目標」として表現できる。

【講義方法】

プリント、スライド

【最低到達目標】

1．　本実習の目的、土台とする考え方について理解できる。
2．　本実習参加にあたっての手続き、課題、評価基準、具体的手続きについて理解できる。
3．　自分は医療にどのような関心を持っているかを検討し、「私の学習目標」を作成できる。

コアカリキュラム

A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①、A-4-2)-②、A-5-1)-①、A-5-1)-②、A-5-1)-③、A-5-1)-④

事前ガイダンス②

担当：種村文孝（医学教育・国際化推進センター）

【講義計画】

早期体験実習Iは、医学科の他に、人間健康科学科と薬学部の学生が参加する多職種連携教育（Interprofessional Education）という特徴をもつ。学生には、自分が将来なる職種（医学科であれば医師）について、医学生や医師の視点からだけでなく、看護師や薬剤師、理学療法士、栄養士などさまざま医療者の視点を踏まえて検討してもらいたい。さらに、将来ともに働くであろう、薬剤師や看護師を目指す学生は、医療に対してどのような関心や考えを持っているのかを理解し、お互いの強みや弱みをどのように補完していけばよいのかについて、実際にこれらの学生と関わることによって、さらに病院でさまざまな医療者の仕事に触れることによって、考えてもらいたい。

以上の目的を達成するために、本実習では、多職種グループを編成し実習に臨む。それに先立って事前ガイダンス②は、多職種理解として動画学習を行う準備、実習に向けた準備を説明する。また、実習中の課題などについても説明し、実習に向けた準備を完了する。

【具体的学習目標】

1. 医療現場で実習するにあたって、必要最低限の知識、スキルは何かを自分なりに認識できる。
2. 多職種の業務内容や特徴について理解することができる。
3. チーム医療の機能や重要性、医療者間のコミュニケーションの重要性を理解することができる。。

【講義方法】

プリント、スライド、ディスカッション、ブレーンストーミング

【最低到達目標】

1. 医師、看護師、薬剤師、PT/OT/ST、診療放射線技師、臨床検査技師の業務内容を把握することができる。
2. チーム医療がどのような概念かを知ることができる。
3. 実習に向けて、自分の興味や関心を問いの形で表現することができる。
4. 実習にあたって必要な最低限の知識やスキルを身につけることができる。

コアカリキュラム

A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①、A-4-2)-②、A-5-1)-①、A-5-1)-②、A-5-1)-③、A-5-1)-④

病院実習

担当：種村文孝（医学教育・国際化推進センター）

【講義計画】

早期体験実習Ⅰは、本来は1週間の病院実習を中心とした体験型授業である。病院での実習中、学生は、①自分が目指す医療者（医学科では医師）について。仕事の様子をシャドーイングし、仕事の特徴や役割を理解する、②医療ボランティアの手伝いや外来支援など簡単な医療サービスに参加することを通じて、「患者になる」ことへの理解を深める、③自分が目指す医療者以外の医療者（看護師、薬剤師、理学療法士など）の仕事の見学、インタビューなどを通して、役割や専門性、思考などの点で、医師とはどのように異なるのか、医師には何を期待しているのかなどを理解すること、という三つの課題に取り組む。ただし、新型コロナウイルスの影響下においては、病院への立ち入りが難しいため、現場の医療職との対話をオンライン上で実施することにより代替する。

本実習において学生は、自ら学びたいことを問いの形で表現しなければならない。何に関心があり、何を問題だと感じているのか、自分がどうなりたいのか、何を得たいのかを現場の医療者に問うために、動画学習や自己学習の内容を元に問いを形成する。そして、実際のオンラインセッションでの対話にて、現場の医療者に問いを投げかけ、深める姿勢が求められる。

【具体的学習目標】

1. 自分が目指す医療者（医学科では医師）について、対話を通じて仕事の独自性、役割、求められる能力や姿勢などを理解すること。
2. 自己学習で深めたことをもとに、さらに関心があることや疑問に感じていることを深めること。
3. 自分が目指す医療者以外の医療者の仕事の話を聞くなどして、どのような専門性や役割をもって医療に携わっているのかを理解すること。

【講義方法】

体験、見学、インタビュー、ディスカッション、シャドーイング、傾聴など

【最低到達目標】

1. 「具体的学習目標」の1.～3.の項目を達成すること。
2. 学習成果についての資料を収集し、レポート作成および事後ワークショップで活用できるようにすること。

コアカリキュラム

A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①、A-4-2)-②、A-5-1)-①、A-5-1)-②、A-5-1)-③、A-5-1)-④

事後ワークショップ

担当：種村文孝（医学教育・国際化推進センター）

【講義計画】

早期体験実習Ｉでは、病院という現場における医療の「体験」が柱ではあるが、「体験」は意識的な意味の吟味（＝振り返り）を通して、「経験知」として我々の身体に蓄積される。事後ワークショップでは、それぞれの学習の成果を持ち寄り、本実習の課題である①自分の目指す医療者、②医療の対象である患者、③他の職種の特徴と多職種連携について理解を深め、将来の多職種連携の土台をつくることを目的とする。参加にあたって学生はレポートを作成し、それを学習成果を示す根拠資料とともに持参し、発表に用いる。現場で自分は何を体験し、どのような気づきを得て、何を考えたのかを自ら言語化し、また他者からコメントや質問を得ることによって、振り返りを行う。本ワークショップは、医学科・人間健康科学科・薬学部の合同で行われるため、成果発表と双方向的なコメントおよび質問を通して、相互の医療者としての使命や専門性、考え方の違いについても触れてもらいたい。

【具体的学習目標】

1. 自分の学習成果について言語化し、それを具体的資料とともに他者にプレゼンテーションできる
2. 他の学生の学習成果、理解、視点、学習成果の資料などを踏まえた上で、本授業の課題に対してグループなりの結論を導くことができる。
3. 本実習全体を通して、どのような医療者になりたいのか、そのためには6回生までの間にどのような学習や経験が必要なのかへの見通しをもつことができる。

【講義方法】

ワークショップ（レポート作成、発表、ディスカッション）

【最低到達目標】

1. 自分の学習成果について、具体的資料とともに他者にプレゼンテーションできる。
2. 他の学生とともに本授業の課題に対してグループなりの結論を導くことができる。

コアカリキュラム

A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①、A-4-2)-②、A-5-1)-①、A-5-1)-②、A-5-1)-③、A-5-1)-④